

様式 2

平成 30 年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 静岡県立伊東商業高等学校

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

1 実践テーマ	【I・II・III・V】
2 実施対象者	全校生徒 368名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育（体育理論）） ② 行事名（全校講演会・文化祭・LHR・学年行事） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（バレーボール教室） ② その他（他の推進校との連携）
4 目標 (ねらい)	・推進校から広がる地域を巻き込んだオリンピック・パラリンピック啓発運動 伊東市の他の連携校や地域に開かれた啓発活動を行うことで、地域におけるオリンピック・パラリンピック熱を高める。校内においては、他の学校行事や授業内容と関連させながら様々な教育活動を行い、伊東市内の他の推進校と協力して、地域に情報発信したり、地域も巻き込んで活動することにより、地域に根ざした学校として、一層の教育効果をあげる。
5 取組内容	○文化祭（6月9日）での校内事業内容の啓発及び、自転車競技関係展示（自転車競技の紹介、競技用マウンテンバイクの展示） ○体育理論授業によるオリンピック・パラリンピックの啓発 ・I'm POSSIBLE を活用したパラリンピック教育 ○地域の小中学生対象のバレーボール教室（8月4日） 講 師：斉藤信治氏（北京オリンピックバレーボール代表） 辻健志氏（全日本女子コーチ）補助：高校男女バレーボール部 参加者：地域の小中高等学校バレーボール部 120 名 ○学年行事での自転車競技体験（11月14日） ・五輪会場伊豆ベロドロームでのバンク走行体験 ・自転車競技用具等の見学 ○マラソン大会へ向けての講演会（12月12日） 「自転車競技の紹介と持久カトレーニング」 講師：野田尚宏氏（日本サイクルスポーツセンター） 対象：1、2 年生 ○オリンピックコーチによる講演会（12月18日） 「世界に通用する選手を育てるには（ペップトークとポジティブコーチング）」 講師：岩崎由純氏（JOC 医科学スタッフ）による講演 期日：12月18日（火） 10:30-12:30 対象：全校生徒 367名、保護者および近隣住民、他推進校児童生徒

一年間を通じて、オリンピック・パラリンピック教育推進事業を行い、校内におけるオリンピック・パラリンピックへの認知度を高めることが出来た。

文化祭では伊豆市教育委員会と連携し、ロードバイクの展示とともに、自転車競技や今年度事業の紹介を行った。実車の展示は来場者にも好評であった。

また、体育授業での啓発も併せておこない、校内での意識の高揚に役立てた。



8月には元バレーボール日本代表齊藤信治氏、同コーチ辻健志氏を招き、地域の小中学生対象にバレーボール教室を開催した。地域の小中学生 100 名以上が参加して、地域への事業の周知と共に高校生の自己肯定感の醸成に役立った。参加小中学生の感想を見ると、非常に満足度は高くなっており、事業の成果が認められた。

【バレー教室満足度調査】

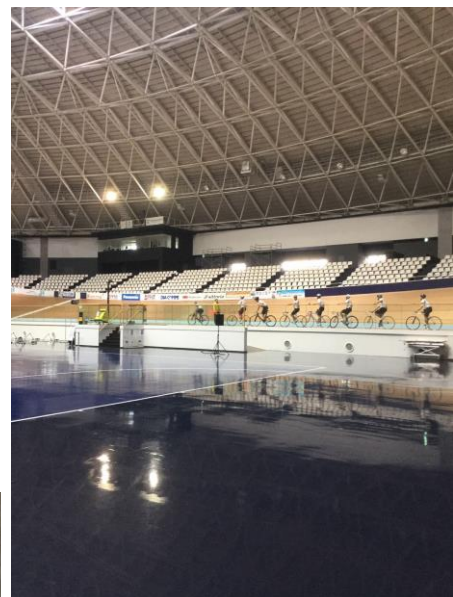
	内容は期待通り	説明は解りやすい	全体的な満足感
5(高い)	64	83	78
4	29	21	19
3	14	4	11
2	1	0	0
1(低い)	0	0	0



6 主な成果

11月の3学年の校外学習では1クラスが日本サイクルスポーツセンター伊豆ベロドロームの施設見学とバンク走行体験を行った。

短時間の経験ではあったが、競技用自転車で実際にバンクを走ることもでき、参加体験した生徒は興奮気味であった。



12月12日には1、2年生LHRの時間を利用し、日本サイクルスポーツセンター競技振興課長の野田尚宏氏を講師に迎え、「自転車競技の紹介と持久カトレーニング」という演題で、マラソン大会へ向けての体カトレーニングについて、トップクラスの自転車競技をコーチングする野田氏よりわかりやすくお話しいただいた。マラソン練習であっても、インターバルトレーニングが有効であるとの話を伺い、今後のマラソン練習に活かしていきたいと感じた。

12月12日には1、2年生LHRの時間を利用し、日本サイクルスポーツセンター競技振興課長の野田尚宏氏を講師に迎え、「自転車競技の紹介と持久カトレーニング」という演題で、マラソン大会へ向けての体カトレーニングについて、トップクラスの

また、12月18日には、「世界に通用する選手を育てるには」という演題で、バルセロナ五輪女子バレーボールボール帯同トレーナーで、現在はJOC医科学スタッフも務める岩崎由純氏による講演会も行った。

岩崎氏が海外でのトレーナー活動を通した多くの経験の中から習得した、ペップトーク（海外の多くのコーチが用いる激励のショートスピーチ）の手法を紹介いただくと共に、世界で通用する選手に共通するメンタリティーや自分自身の肯定感を高めるセルフペップトークの手法について講演をいただいた。



【講演会事後アンケート】

	内容は期待通り	講話の解りやすさ	全体的な満足感
5(高い)	142	187	122
4	190	157	145
3	22	11	80
2	1	0	8
1(低い)	0	0	0

岩崎氏は全国各所で講演活動を行っており、事例や実体験を交えた講演は非常に解りやすく、生徒の事後アンケートでは非常に満足度が高かった。また、海外のスポーツ現場（NFL やロサンゼルスオリンピックのトレーナー活動）でのお話には、選手だけでなく大会を支える裏方の仕事に対してもクローズアップされており、スポーツを「支える」という視点で、生徒の視野が広がったのではないかと感じた。



7実践において工夫した点（事業の特色）

伊東市の他の連携校や地域住民に活動を広報し、学校内だけでなく、地域に開かれた啓発活動を行う事で、地域におけるオリンピック・パラリンピック熱を高める事を目標に事業を行った。文化祭では年間を通じた事業の説明と自転車競技の紹介を来場者に行った。

バレー教室では、高校生を補助コーチとして、地域の小中学生を巻き込み活動を行った。

その他の講演会でも講師の承諾の下、外部からの参加者を受け入れた。

各事業では、地元新聞社の協力で広報活動を行った。

普及協岩崎会長がペップトークの力訴え 伊東商高

伊東版 2018年12月19日



「言葉で前向きなイメージ」

県立伊東商業高（川口嘉弘校長、生徒366人）は18日、体育館でペップトーク普及協会会長のアスレチック・トレーナー（AT）岩崎由純さんの講演会を開いた。

スポーツ庁の「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国事業」の一環。ATとして過去の五輪・パラリンピックに参加した岩崎さんが、自身の経験を基に前向きな激励「ペップトーク」の役割や今の自分を受け入れて努力することの大切さを訴えた。

岩崎さんは「人は言葉でイメージを描く。だから前向きな言葉を使うことが大切」「自分に前向きな言葉を言い聞かせることで、なりた自分になれる」「前向きに頑張ること、チャンスをつかむ可能性が高くなる。成功したら喜び、チャレンジして失敗したらやり直せばいい」などと、生徒たちに熱く語りかけた。

【写真】岩崎さん（右）の話を傾ける生徒たち＝伊東市の伊東商業高

8主な課題等

本校の取り組みを市内の他の推進校に広報したが、学校行事等の都合もあり参加者は予想していたよりも伸び悩んだ。学校の夏季休業中に行ったバレー教室では100名を超える参加者があったが、生徒向けの講演会は夏季休業中に行うことは難しく、期日の設定や広報活動等に課題が残る。

9来年度以降の実施予定

単年度事業で行うよりも、東京オリンピックまでの複数年で行った方が事業の効果が上がると予想される。隣の修善寺町で大会が開催されることもあり、伊東市でもオリパラ熱を高める必要性を感じるため、継続して事業を実施することを希望する。

